特集 1

I人でも多くの患者さんを受け入れるために！

地域によりそう 救急医療

救急部　診療医長　大谷　圭

可能な限り、I台でも多くの救急車を受け入れ I人でも多くの患者さんの不安を解消したい

第三病院は、もともと地域密着型の病院であり、周辺に大きな集合住宅が多く、高齢化が進んでいる地域のため、高齢者の独居や老老介護の問題が、他の地域に比べて深刻になっている側面があります。

ですから救急とはいえ、治療だけして、そのけがや病気が治ったらそれで終わりということではなく、その後の生活の立て直しまで、人としての生活できるレベルに橋渡しをして、初めてその治療が完成するという考えで対応することを心がけています。それが当院の救急診療のひとつの特徴といえるでしょう。

24時間稼働している部署であるため、常に人員が十分とは言えない状況ではありますが、幸い当院は、他科との連携がスムーズで、入院や専門的治療が必要な場合には、各科に依頼し、比較的すぐに診てもらうことができるようになっています。また、近隣の医療機関とも連携が深く、もし当院で病床の空きがない場合でも、他の医療機関で入院を継続させることが可能であり、他の医療機関からも依頼があれば、最大限受け入れる体制を整えています。

救急医療については、救急車の利用状況など社会的に解決していかなければならない問題がいくつもありますが、救急で運ばれている患者さんの多くは、状態の程度に関わらず、不安に陥りパニックを起こしている状況であることはたしかです。そうした患者さんに接している者としては、救急という現場である以上、ある程度の限界はありますが、1台でも多く救急車を受け入れ、1人でも多くの患者さんを診て、不安を解消し、社会に戻すのが使命だと考え、日々尽力しています。

看護部　看護師長　染谷　典子

患者さんのご家族のサポートも 救急現場の看護師の大切な役割

救急の現場では、他の外来や病棟などの部署と違い、あらかじめ患者さんの診断がついているわけではないため、痛みや苦しさの原因がわからないというところから入っていかなくてはなりません。まずは頭の上から足の先まで、全身を観察するのですが、時間の猶予がないので、患者さんの状態を見て判断を下しながら、同時進行で次の手を考えることが求められます。ゆっくり考えていては間に合いません。そこが救急の看護師の仕事の難しいところです。

ただ、そのような状況の中でも心がけているのは、患者さんやそのご家族をいかにサポートするかということです。体が危機のときは、心も危機に陥っています。それは患者さんのみならず、一緒に来る家族も同様です。特に症状の重篤な患者さんの場合、本人の意識がなければ、家族が意思決定をしなくてはなりませんが、動揺していて冷静な判断ができないとか、医師の話を聞いているようで、実はよく理解されていなかったという方も少なくありません。命に関わる決定なので、理解されないまま承諾されても、あとあと後悔するのは家族の方です。命を守ることが前提なのはもちろんですが、そうした意志決定のサポートをすることも救急現場の看護師の重要な役割だと考えています。

看護部　看護主任　浅岡　夏美

救急室での数時間でも 患者さんが安心して過ごせる 環境づくりを心がけています

救急の現場では、患者さんが安全に楽に検査や治療が行えるようにするのが看護師の仕事です。救急室で治療を受けたり、検査を受けているたった数時間も患者さんの生活の一部。患者さんが不安を解消し安心して過ごせるように、その環境をきちんと整えるよう心がけています。

さらに救急室を出た後、社会に戻っていく方たちに対しても、けがや病気の状態が続く間は、回復に向けて生活を指導するなどの環境を整えることも救急看護師の大事な役割です。例えば、お子さんがけがをしたとき、親御さんが仕事から帰ってくるまでの時間をどうするかを相談したり、きき手を骨折した高齢者の独居の方への社会のサービスや家族の調整といったことも行います。生命を助けるのが第一ということは救急の基本ですが、患者さんが安全に帰れて、なおかつ安心に過ごせる環境を整えられて初めて救急看護師の任務が完了すると考えています。

くすりの耳寄り情報

百薬の聴

注意したい、薬と牛乳の飲み合わせ

薬と食べ物には、よくない影響が出る組み合わせがあります。例えば一部の抗菌薬や骨粗しょう症薬は、牛乳と一緒に飲むと、牛乳のカルシウムと薬の成分が結合し、薬の吸収を妨げることに。逆に、牛乳の脂肪分によって薬の吸収量が増え、作用が強まることもあります。牛乳を飲む場合は、薬を服用後2時間以上あけてください。

この情報 ウソ or ホント？

Q　咳止めを飲めば、はやく風邪が治る？

A　風邪は鼻・のどを中心とした感染症です。病原体を察知した身体が闘う反応を起こし、痰や鼻汁の分泌が増えます。痰や鼻汁が気管支へ垂れ込んで貯まっていくと肺炎の元になる可能性があり、それを排出して守る働きが咳です。咳止めを飲んでも、痰の喀出を抑え、かえって症状が長引く可能性があります。風邪をはやく治すには、鼻炎を改善し、うがいや、まめな水分摂取により、のどや気管支の粘膜を潤わせることの方が大切です。

医療最前線

日本で開発された 増感剤併用子宮頸がん放射線療法

産婦人科診療部長　礒西 成治、産婦人科医師　森本 恵爾
放射線科診療部長　關根 広、放射線科医師　宗像 浩司

礒西 成治

子宮頸がんでは、手術、化学療法、放射線療法が三大治療法と言われています。

そのうち放射線療法は、局所進行がんや高齢者、合併症などの理由でほかの治療法が得られない場合などにも広く使用されています。例えば子宮頸がんでは、化学放射線療法により放射線の効果を著しく増強させ、当院を含め、その治療効果は飛躍的に改善されました。

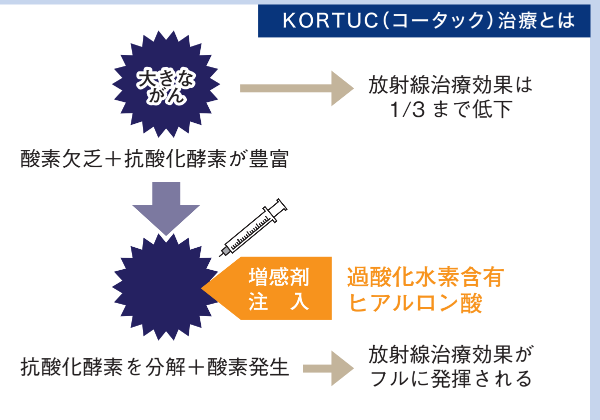
その放射線療法の中でも、現在注目されているのが、増感剤を併用した放射線療法の「KORTUC（コータック）療法」です。

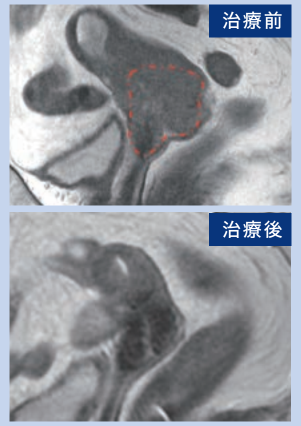
これは、すでに安全性の確立している増感剤をがん組織に注射し、腫瘍内部の酸素欠乏状態を改善することで、放射線治療の増感効果を得ようとするもので、日本で開発された治療法です。当初は皮膚がんなどに限られていましたが、現在では子宮頸がんにも応用されています。

KORTUC療法は、まだ臨床試験の段階ではありますが、その効果は得られており、当院では2016年より導入されております。

第三病院の産婦人科では多様な婦人科悪性腫瘍を扱っておりますが、特にご高齢の方や合併症をお持ちの方に配慮した診療をおすすめしておりますので、お気軽にご相談ください。

KORTUC（コータック）治療とは





第3の星

今回は 救急看護認定看護師の 古沢身佳子 看護主任

第三病院の救急一筋のエキスパート

現在はICUの主任看護師を務める古沢さん。第三病院の看護部で唯一の「救急看護認定看護師」です。看護学校在校時から救急を目指し、入職後も最初の配属から15年間救急現場で勤務してきた筋金入り。とはいえ「医師の出番の多い重症のケースよりも、道で転んでケガをした人やちょっと具合が悪いとか、熱が出たなど、そういう人たちに対して求められているものを提供するほうが看護師としてのやりがいを感じる」とのこと。「そのほうが救急のニーズとしては高いし、また難しいことも多いんです」（古沢さん）。地域に密着した第三病院の救急医療になくてはならない存在です。

青いストラップは、認定看護師の証。

TOPICS

公開健康セミナー

皆様からの関心の高いトピックについて、専門医がていねいにお話しいたします。ご参加希望の方は、当日、直接会場へお越しください。（先着200名・事前申込不要・受講無料）

こうすれば心配いらない 高血圧と腎臓病

日時：平成30年1月13日（土）
14:00〜15:30
会場：看護学科1階 大講堂

講師：
宮崎陽一
（腎臓・高血圧内科）

【講師からのメッセージ】
高血圧が心臓発作や脳卒中（心血管イベント）を引き起こすことはよく知られていますが、実は腎臓病も心血管イベント発症の強力なリスク因子であることがわかってきました。高血圧は腎臓病を悪化させ、それがさらに高血圧を招くという悪循環も生じます。これを断ち切るのが適切な減塩療法です。今回は高血圧と腎臓病における減塩療法の大切さや無理なく実践するための知識・工夫についてお話します。

手術で治せる認知症
～認知症の早期発見と正しい理解のために～

日時：平成30年3月17日（土）
14:00〜15:30
会場：看護学科1階 大講堂

講師：
石井卓也
（脳神経外科）

【講師からのメッセージ】
認知症は、一度発症すると、治療によって治ったり、劇的に改善することは少ないのが一般的です。しかし、脳の疾患が原因で認知症が起きている場合は、その疾患を治療することによって、症状がよくなるケースもあります。その疾患というのは主に脳腫瘍・慢性硬膜下血腫・正常圧水頭症の三つです。今回は、これらの疾患によって起きる認知症の特徴や治療法、手術によって軽快した症例などについて取り上げます。

旬のひと皿

今回の 2018 WINTER
食材
ほうれん草

ビタミンや鉄分の豊富な青菜類は、冬が旬。葉に厚みが出て甘味が強くなるだけでなく栄養価も増えてきます。おひたしでもよいのですが、クリーム煮にすることで、寒い季節にぴったりの、じんわり温まる一品に。量もたっぷり食べられます。えびの代わりにホタテやカニなどを使ってもよいでしょう。塩は好みで1～2ふり程度入れてもよいのですが、健康の面からは、なるべく入れずにすませたいところ。コンソメやバターに含まれる塩分で味がついており、十分おいしくいただけます。

ほうれん草のあったかクリーム煮(2人分)

①玉ねぎをくし形に切る。②ほうれん草はさっとゆで、根を落として3等分に切る。③鍋にバターを入れて中火にかけ、玉ねぎを炒める。2～3分ほど炒め、透き通ったら火を止めて小麦粉を振り入れる。④火を止めたままで、小麦粉と具材をよく混ぜ合わせたら、水、牛乳、固形スープの素を加え、全体をざっとかき混ぜる。⑤ほうれん草とえびを加え、全体をざっくり混ぜたら中火にかける。⑥ふつふつと煮立ってきたら弱火にし、ときどき鍋周りからかき混ぜながら、具材が軟らかくなり、とろみがつくまで5～7分ほど煮込む。⑦味をみて、必要であれば塩こしょうで味をととのえる。

Recipe

ほうれん草	1わ
えび	6尾
タマネギ	1／2個
小麦粉(または片栗粉)	大さじ2
バター	80g
牛乳	200g
水	50g
固形スープの素(コンソメ)	1個
塩・こしょう	好みで 1～2ふり

レシピ作成・監修:第三病院栄養部監修 管理栄養士 友野 義晴

急な症状チェック

こんな症状はありませんか?

～こんなときは、ただちに受診をしましょう!～

以下は、脳疾患や心臓などの循環器疾患、アレルギー症状など受診の緊急度の高い代表的な症状です。

- □ 突然、頭をバットで殴られたような激しい頭痛が起きて治まらない(脳外科へ)

- □ 突然、胸から背中にかけて激しい痛みが起きて治まらない(循環器内科へ)

- □ イカスミのような真っ黒い下痢便が出た(消化器内科へ)

- □ 頭を強く打った直後から、3ヵ月以内にいつもと違った言動が見られる(脳外科へ)

- □ 何かを食べたり飲んだりした数分後から数時間以内に、顔や全身の皮膚がかゆみを伴って赤くなり、息苦しさや意識が遠のく感じがする(救急科へ)

救急車を呼ぶべきか迷ったときは#7119(救急相談センター)をダイヤルしましょう!

東京慈恵会医科大学附属　第三病院

〒201-8601　東京都狛江市 和泉本町4丁目11－1

〈受付時間〉8:00-11:30〈診療時間〉8:45～

〈休診日〉日曜・祝日、大学記念日(5/1、10/15)、年末年始(12/30～1/4)

〈お問い合わせ〉03-3480-1151(大代表)、http://www.jikei.ac.jp/hospital/daisan/index.html

発行:東京慈恵会医科大学附属第三病院広報委員会

慈恵第三病院と患者さんをつなぐ情報誌

TOMONI

と　も　に

2018 WINTER

vol.4

特集

1人でも多くの患者さんを受け入れるために! 地域によりそう救急医療

医療最前線

TOPICS

寒さに備え 青菜の強さを取り込んで

冬の青菜は栄養豊富。
寒さに耐えて育つからこそ
ぷっくり肉厚、風味も濃厚。
寒さがつのる、これからの季節
冬の野菜のエネルギーを取り込んで
しっかり体を温めましょう。

作:第三病院栄養部

empathy based medicine

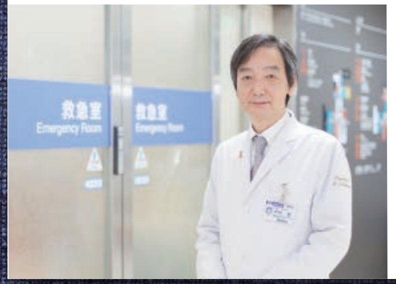
救急診療に力を尽くすスタッフの生の声をお届けします

院長　中村 敬

皆様、明けましておめでとうございます。

2018年の初頭に、当院情報誌「TOMONI」第4号を刊行する運びになりました。

本誌は「共感と思いやりにもとづく医療」を推進する当院の取組みや最新の診療情報を皆様にお知らせする手立てとして、2016年9月に発刊いたしました。幸い、病気と治療に関する基本的な知識から身体にやさしい料理のレシピまで多様な情報が得られると、ご好評を頂いております。



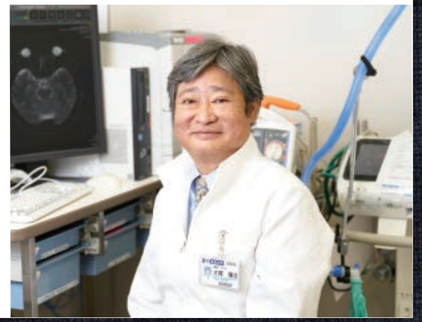
今号では当院の救急診療について特集しました。患者さんの体調が急変した際、円滑に救急受診できるよう体制を整えることは、当院の重要な使命だと考えております。この特集を通して救急部スタッフの生の声をお届けしますので、どうぞご一読ください。

地域のニーズに応えられる救急医療を目指して

救急部診療部長　大槻 穣治

当院は2次救急医療機関として、一般病棟への入院や手術が必要な患者さんや近隣の医療機関からの要請による患者さんなど、軽症や中等症の患者さんはもとより、ICUの適応となるような重症な患者さんまで幅広く受け入れています。周辺の地域柄、一人暮らしでご高齢の患者さんも多く、不安を解消できるような対応を心がけるなど、地域のニーズに応えられるよう努力しています。

現在、救急車の適正利用という観点から、万が一の場合には、まず救急相談センター(#7119)に電話をすることが求められていますが、当院では直接お電話を頂ければ、救急のスタッフが直接お話を伺い、できるだけ迅速に適切な対応できるよう体制を整えています。



また、当院は近隣地域で唯一の災害拠点病院として、調布市、狛江市、各医師会と合同の緊急医療救護所設置訓練を定期的に行っており、救急部と当院DMAT隊はその中心的役割を果たしています。今後も、さまざまな面から地域に貢献できる救急診療を目指していきたいと考えています。